

## 小学四年

## 国語

## 解答と解説

2		問十			1	
問一	①	ら	ん	仲	ア	問一
工	37	。	が	間	26	①
⑤	38	久	だ	と	問六	ウ
教	39	田	さ	思	27	⑦
室	40	ん	ん	つ	問七	ア
の	41	一	一	て	28	ア
イ		人	人	い	問八	ウ
窓		の	の	た	29	問三
か		せ	の	の	30	ア
か		い	に	に	31	工
		に	、	、	32	問四
		し	仙	仙	33	イ
		た	道	道	34	
		か	さ	さ		

真中さんのことばで立場が悪くなつたとたん、

31  
32  
33  
34

5	4	3	問六	問四
土 管	愛 犬	五 主語 述語 才 ア 述語 才	工 主語 述語 工 ② 主語 ウ 述語 ア	工 問七 ア ↓ ウ ↓ イ 問八 イ 問九 ア
62	57	53 54 51 49 46 48	45 42	43
関 係	児 童	十 主語 述語 才 ア 述語 才	ア ↓ ウ ↓ イ 問八 イ 問九 ア	安 価 な 養 殖
63	58	54 55 52 50	47 46 48	44
連	英 才	四 主語 述語 ア 述語 才	ア ↓ ウ ↓ イ 問八 イ 問九 ア	
64	59	55 56 52 50	46 47 48	
別	石 炭	千 主語 述語 才 ア 述語 才	ア ↓ ウ ↓ イ 問八 イ 問九 ア	
65	60	56 52 50	46 47 48	
改	汽 笛	61		
66				

(配点)  
 ①〔問一〕各2点、〔問十〕8点、他各5点  
 ②〔問一〕各2点、〔問七〕6点、他各5点  
 ③④⑤各2点  
 計150点

## 解説

【1】 いとうみく『チキン!』(文研出版)から出題しました。自分に正直でいようとするために、周囲と衝突する眞中さんと、眞中さんのまっすぐさにとまどいながらも、徐々に彼女のよいところに気づく「ぼく」を中心に物語は描かれています。登場人物それぞれの気持ちを丁寧に読みとりましょう。

## 問一 A2 知識 関係づけ

① 「融通」とはその場その場に応じて適切な処置をとることです。

⑦ 「きびすを返(す)」の「きびす」とはかかとのことです。「きびすを返(す)」は引き返すことです。

## 問二 A2 関係づけ 知識

② 授業中ですから、手紙は先生に気づかれないようにまわつてくると考えられます。

③ ③の前で、眞中さんがまちがっていると思ったことは、見て見ぬふりをすることがない様子が書かれています。ウ「こまごま」エ「ねちねち」は眞中さんの性格や行動を表すには合わない言葉です。

⑩ 直後で仙道さんが久田さんに同調して「そうだよ。わざと同じやないもん」とあることから、ここには「わざと」が入ることがわかります。

眞中さんが「つつかかってしまう」とあります。自分がどう思われようとまちがっていることを正さないと気が済まないところが「浮いた存在」になってしまいます。眞中さんの一連の行動がまとめられている選択肢を選びましょう。ア「大人からよく思われようとして」、イ「クラスメイトと仲良くする気がない」、ウ「人をきずつけることを何とも思っておらず」「思いやりのない」などの部分が誤りです。

## 問四 B1 具体化 比較

ここでの「願い」とは「眞中さんがおとなしくしていますように」です。ですから、「願いが聞き届けられた日は、まだ一度もない」ということは、眞中さんがおとなしくしていだ日はまだ一度もない、ということです。

## 問五 B1 具体化 比較

藤谷さんは、「いつもひとりでノートに絵を描いているおとなしい女の子」です。「気にしてない」と言つたのは自分がまんすればよいという気持ちがあつたのだと考えられます。しかし、久田さんの「ほら、本人がいいつていってんじゃん! おおげさんんだよ」という一言で、藤谷さんは、自分の「気にしてない」ということばのせいで眞中さんが責められていることをさとります。しかし、その久田さんの強い態度に怖気づいて、ノートをやぶつたことへ抗議することも、眞中さんをかばうこともできません。だからどうすることもできずに「完全に固まつてしまつた」のだと考えられます。イ「久田さんたちとの仲がこじれてしまつたので、眞中

## 問三 B1 理由 比較

——線④の直前に、ぼくの考えが書かれています。みんなが「がまんしたり、見て見ぬふりをしたりして」いることに

さんを許せない」、ウ「言い返す：チャンスをうかがつていい」、エ「久田さんの：言い分にあきれはて」「話しあいはできないと見切り」などの部分が本文中からは読み取れず、不適切です。

問六 **B1** 関係づけ 知識

（8）の前で、三人が「同時に声をあげ」、非常に驚いていることがわかります。ですから、ここには「とてもおどろいた」という意味の「息をのんだ」が入ります。「胸をなでおろ（す）」はほつとすること、「目頭をあつく（する）」は感動してなみだぐむこと、「鼻をあか（す）」は人のすきを見て相手をびっくりさせることです。

問七 **B1** 理由 比較

——線⑨の直後に「あ、あたしは：やぶつたわけじゃない」とあることから、久田さんが動搖していることがよみとれます。そして、後でしぶしぶ謝つていることから、イ「ひどいことをしてしまった：自分がはずかしく」は誤りです。ウ・エには動搖している気持ちが示されていませんし、エ「一方的に責めてくる」などは本文中に書かれていません。

問八 **B1** 置換 比較

——線⑪の直前に「藤谷さんが：いいよつて見せてくれたたら」とありますが、これは、藤谷さんのノートを見させてくれていたら、ということですから、「こんなふう」というのは藤谷さんのノートの状態のことを指しているのだと考えられます。

問九 **B1** 理由 比較

真中さんの指摘の前に、「ぼく」が「これじやあ、まるで藤谷さんがわるいみたいじやないか。なんかおかしい。仙道さんのいってることつて、すごくへんだ。」と思っていることに注目しましょう。「ぼく」は真中さんと同じく仙道さんの発言はおかしいと思うながらも、それを明確に言語化することも、本人たちに伝えることもできていません。しかし、真中さんはそれをしてのけました。だから「かつこい」と思つたのです。ア「久田さんが反省でき」、ウ「久田さんが心から反省：冷静に見ぬいていた」、エ「藤谷さんの気持ちを：伝えることで」、「みんなを藤谷さんの味方に」などの部分が本文中には示されていません。

問十 **B2** 理由 推論

久田さんがおどろいたのは、自分と同じように藤谷さんをいじめていた者同士だった仙道さんが、今回のこととを久田さん一人のせいにしたからです。おどろきの理由を説明するときは、「（と思つていた）のに（から）」の形で説明するとうまくまとまります。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従つていらないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。

問十一 **B1** 具体化 比較

——線⑭を含む前後の久田さんの「赤い目で：にらむ」「唇をかんだ」「しぶりだしたようなかすれる声」などから、

久田さんが一人謝ることに納得がいかず、くやしさをこらえていることを読みとります。ア「自分がなきなく、はじいる」、ウ「自分たちに仕返ししてきた」、エ「二人と仲よくしたいと強く願う」は本文中から読み取れません。

## 問十二

## B1 抽象化

その場の風景や自然を描くことで、主人公の気持ちを表現することを「情景描写」といいます。ここでは、二ページ下段の「教室の窓からなまぬるい風がなめるように流れてくる」の部分です。体にねつとりとまとわりつくようななまぬるい風を「なめる」と擬人法をつかって表現しています。話の展開のおかしさに強い違和感を覚えた「ぼく」の気持ちがこの一文からも読み取れます。

## 2

小泉武夫の『いのちをはぐくむ農と食』(岩波書店)から出題しました。筆者は、幕の内弁当の中に入っているサケを例にだし、日本人が値段が安いというだけで食べものを選んでいることを問題視しています。食べることは生きるということと深く結びついています。ですから食べものに対する選択基準を今一度見直す必要があると主張しています。

## 問一 A2 関係づけ 知識

文と文を接続する言葉は、前後の文の関係をよく確認して入れましょ。《①》の後に「つぎは」「それから」と食べものとその食べ物がどこから輸入したものか列挙していっています。ですから、ここには「まず」が入ります。《⑤》の前では日本のサケが「世界一おいしい」と、後では、「安心・

## 問二

## B1 関係づけ 比較

②の直前に「つまり」があることに注目しましょう。これ以前の内容の言い換えが②ということです。前一部分では、いちばん安い幕の内弁当に入っているおかずやお米、箸にいたるまでぜんぶ輸入品であることが一つ一つ示されていました。ですから、これをまとめた表現であるイが正解です。ア・ウ全部輸入品であるのは、「見た目の美しさを大事」にしたからでも、「外国の食材は日本人の口にあう」からでもなく、安価だからです。エ「栄養のことを全く考えていない」というのは極端な表現です。

## 問三 B1 具体化 比較

—線③の直前の段落で、「食べものの価値判断をお金ですること:これは正しいことなのでしょうか」と問題提起をしたうえで、「サケの話」は最後の一・二段落の前まで続きます。そして、最後の筆者の意見が述べられる段落で食べものの選択基準がいまの日本人はおかしくなっていると注意をうながし、「このあたりを考えてほしい」と記しています。このことから、サケの話は「食べものに対する選択基準」つまり、食べものに対する価値観を見直し、考えてほしいということ

安全だといわれている」ことが書かれています。日本のサケの特徴の二つ目の内容ですから、《⑤》には並列を示すつなぎことばにもなる「そして」が入ります。《⑦》を含む一文は問題提起の文です。ここ以降から「日本のサケが日本国内で食べられなくなつた理由」が書かれていることがわかります。ですから、ここには話題転換の「では」が入ります。

を言うための例だということが分かります。

#### 問四

##### B1 具体化 比較

——線④の後の「しかし」に注目しましょう。この「自然条件で育つたサケ」の短所は、「放流した稚魚のうちで、大きくなつて帰つてくるのは一%にも達しない」とことだと読み取れます。そのせいで、値段が高くなり、おいしいまま食べるためには、わざわざ河口付近や前浜などで獲らないといけないのです。手間もかかります。長所は、安心・安全でおいしいことです。ア「中国でサケ缶に加工したものしか味わうことができない」、イ「成長するとおいしくなくなつてしまふので、日本では人気がない」、エ「河口や前浜で丁寧に育てる」などの部分が本文中に示されていません。

##### B1 置換

この「自然条件で育つたサケ」と比べられているのが、チリやノルウェーの養殖サケです。「養殖」が「自然条件で育つた」の反対の意味のことばになつています。

#### 問五 B1 理由

——線⑥の次の段落に「日本人はなぜ食べなくなつたのでしょうか」とあることに注目しましょう。その後に「安価な養殖サケが大量に外国から入つてきているから」と理由が書かれています。

#### 問六 B1 具体化 比較

——線⑧の直後に「それは……」とあつて、ここ以降に「リス

ク」の内容が示されていることがわかります。ですから、このリスクとは、「生簀の中で飼つているので、……伝染して全滅する」ということだと分かれます。

#### 問七 B1 関係づけ

文の並べ替えの問題です。このような問題が出たときは、つなぎことばや、指示語に注意しながら考えるとよいでしょう。⑨の直前に「日本の：サケを食べるべき」とあり、ア「でも、現実には：食べていない」とあるので、これが一番に来ます。アに「冷凍庫がサケでいっぱいになり」とあり、ウに「売れないのに：サケをもちかかえていると……」とあるので、ウはアの後です。イの「それによつてもちこたえられないサケ業者」の「それ」は「毎月：冷凍庫代」がかかることをさしていますので、イはウの後です。よつて、答えは、ア→ウ→イです。

#### 問八 B1 具体化 比較

——線⑩の「こういう情けない民族」の「こういう」の内容を明らかにしましょう。それは直前の「安全面やおいしさの点で大丈夫かなというサケを、安いという理由だけで買って食べている」ということです。最終段落のまとめ部分のこたばでいえば、日本人は、「食べる」という「生きていく」ことに直結した行為においての「選択基準」が「おかしくなつている」ということです。ア「おいしさ：目の前の快樂や利益に流されて」、エ「おいしいと思いこみ」の部分が本文の内容とあいません。また、筆者は、サケに関する知識がないことを「情けない」とは言つていませんので、ウも誤りです。

## 問九

## B1 抽象化 比較

筆者は幕の内弁当、特にサケを例に出して、日本人の食べものの選択基準がおかしくなつていてることに警鐘をならしています。イ「国産のサケを日本で消費する方法を読者に考えさせる」、ウ「日本でとれるサケが：食卓に並ぶかを説明」、エ「食材がどこから来たのかを一つ一つ説明」などの部分が、本文の内容と合いません。

## 3

## A2 知識

主語と述語の問題です。まず述語から探し、それをしたのはだれか？それはなにか？というように考えると主語をどうえやすくなります。

① 述語は「わたし」です。「わたし」のはだれかと考えると、「ぼくは」や、「わたしは」などが主語になるところがありますが、この一文では主語にあたる言葉が省略されています。

② 倒置文（文が通常の語順ではない文）です。通常の語順に直すと、「ぼくを／うらぎつたのは／きみだつたのか」です。述語は「きみだつたのか」です。この文の中で、なにがきみだつたのか、と考えると「うらぎつたのは」が主語になることがわかります。

③ 述語は「ある」です。何があるのかと考えると「池」が主語になることがわかります。「～では」「～には」は「～で」「～に」を強調した言葉です。

④ 述語は「セーターです」です。何がセーターなのかを考えると、「これは」が主語だとわかります。「母が」は「あんぐれられた」の主語にあたる言葉です。この一文の主語で

## はりません。

## 4

## A1 知識

四字熟語の問題です。漢数字が使われる四字熟語はさまざまあるので、今のうちからしつかりおさえておきましょう。

- ① 五里霧中：深い霧の中にいて、方向がわからないことから、物事の事情がわからず、どうしてよいかわからないこと。
- ② 十人十色：十人いればそれぞれ顔かたちが違うように、人によつて、好みや考え方がちがつていること。
- ③ 四苦八苦：非常に苦しむこと。
- ④ 一日千秋：一日が千年にも感じられるほど長く思われること。千秋とは千年の意味。